

事例 7

コーディネーター名	小林 みゆき 丸山 和美	活動学校	佐野市立城北小学校
コーディネーター歴	小林：3年目 丸山：2年目	経歴	小林：元保護者（PTA 役員） 丸山：保護者

1 コーディネーターを始めるきっかけ

平成 20 年度に佐野北中学区において学校支援地域本部事業が実施されたのをきっかけとし、城北小学校に初めてコーディネーターが配置された。2 年後、学校長から依頼を受け、読み聞かせ等の学校支援ボランティアをしていた方がコーディネーターを引き継ぐこととなった。読み聞かせを中心に学校支援ボランティア活動をしていた自分たちにも、先輩コーディネーターから依頼があり、コーディネーターとして活動することとなった。現在は、3 名で活動している。

2 コーディネート活動の概要

コーディネーターとしての活動内容は、学校支援ボランティア活動の運営・支援、読み聞かせボランティアの募集、ボランティアと先生の連絡調整、ボランティアの人材発掘等である。また、ボランティアの活動を広報するために新聞や案内チラシを作成している。仕事内容は、各自の得意分野を生かすように 3 名で分担し、協力し合いながら進めている。

ボランティアの活動内容は、全クラスに 1 名の配置が可能な読み聞かせボランティアを中心に行いながら、校外学習の引率や家庭科のミシン操作の補助といった授業のサポート、夏休み中に行われる学習会の支援、休み時間に図書室利用の手伝いなどがある。



夏休み学習会の支援の様子

3 コーディネート活動がうまくいくためのポイント

① 学校からの支援

■ 教職員、保護者への周知

年度初めにコーディネーターの紹介を学校長が職員に対して行ったり、校内にコーディネーターの写真を掲示したりして、職員や保護者に広く知ってもらう取組がされている。

■ 定期的な打合せ

コーディネーター担当教員との打合せができる機会が月に 1 回確保されている。

■ 活動場所の確保

情報交換等ができる場としてボランティアルームという居場所が確保されている。

② 工夫していること

■ 活動が充実するために

・自分自身の仕事に支障をきたすことがないよう、3 名で連携を取りながら活動している。

- ・3名それぞれの得意分野(連絡調整、文書作成、情報収集など)を生かして仕事の内容を分担している。
- ・ボランティアルームにおいて、アンケートの記入や感想等を聞く場を設けて、課題改善につなげている。

■ ボランティアを確保するために

- ・一度ボランティアに関わった方が、その後も他のボランティア活動に参加するという傾向があるため、初めてボランティアをする方に積極的に声かけなどを行っている。
- ・読み聞かせボランティアでは、募集案内を配布してもなかなか集まらない現状がある。そこで、既に登録している人がボランティアに興味がありそうな人にどんどん声をかけ、ボランティアの人数を増やしている。

■ 後継者への引継ぎ

- ・自分たちはコーディネーターを始めたばかりなので、後継者のことを考えたことはない。ただ、ボランティア活動をしている様子などから、コーディネーターとしてふさわしい方もいるので、少しずつ声かけ等していきたい。

4 コーディネーターとしてのやりがい

子どもや先生、保護者、地域の方などに関わる機会が増え、たくさんの人と強くつながっていると感じ、やってよかったと思える。また、子どもと接するといつも元気をもらうことができ、とてもうれしい。自分の子どもが学校に在籍なくなると学校との関わりがなくなってしまうことが多いが、コーディネーターになったことで学校との関わりをもつことができ、さらに地域の一員として力を注ぐことができていることに喜びを感じる。

5 活動上の課題

子どもが学校に在籍していないと学校支援に関われない状況にある。子どもの有無や年代に関係なく、地域の人がもっと学校に関われるような取組をしていく必要がある。

6 その他

- ・小学生の時に読み聞かせボランティアをしてもらい、とても楽しかったので自分もボランティアをやろうと思った中学生や、夏休み学習会にボランティアをして、教える側と教わる側の気持ちを知ることができ、大変勉強になったと感想を述べた高校生に出会うことができた。ボランティア活動が子どもを成長させる一つのきっかけになっていると実感した出来事だった。
- ・コーディネーターと担当教員がうまくつながっていることが、学校支援活動をやりやすいと感じる重要な部分だと思う。